

## 国語（中）部会

### 研究授業のようす

どの学年の授業も研究主題「生徒が生き生きと取組み、豊かな国語の力をつける授業の創造」を意識した組み立てであった。教室には、「学力」に差がある生徒たちが混在しているが「～できた」という達成感を感じさせることで、子どもたちの「生き生き」とした姿勢を生み出そうとした授業者の思いが伝わった。学力テストや受験を意識した知識偏重型になりがちな世の流れもある中で、「生き生き」とした活動と、「豊かな国語の力」の育成とのつながりに気づかされる研究授業であった。



(1年)

(2年)

(3年)

### 分科会①について

学年ごとのレポート交流。新教科書になり3年目を迎えた今年は「追実践」をコンセプトにレポート作成を行った。指定教材に対する多くの実践が寄せられ、新たな教材価値の発掘など、教材研究の観点において深まりが得られた。

### 分科会②について

学年ごとに小グループに分かれての共同教材分析を行った。指定教材は「麦わら帽子」「クジラたちの声」という過去の教科書教材である。「教材をどう教えるか」より「教材で何を教えるか」ということに重きを置き、教材化の視点を交流した。共通の教材を一から分析し、議論し合えたことで、個人内研究の深まりが得られた。

### アンケートより（抜粋、ほぼ原文のまま）

- ・日頃、忙しさのためどうしても深まりを欠いている教材観や指導方法など、見直すよいきっかけとなりました。
- ・主題の達成のために、どういったことを大切にすべきか、それはどのような方法で達成に向かうのかを学ぶことができた。
- ・今年やってみて「生き生き」していればいいのか、やや疑問に思うところがありました。そもそも「確かな国語力」とは何なのか、それをきちんと考えなくてはならないと思いました。
- ・色々な先生の教材観や授業作りの切り口を知ることができて、大変有意義でした。
- ・同じ教材を複数の目線から分析したことで、気づけなかったことに気づき、新しい発見があった。子どもたちもこういう気持ちなのかなと思った。とても深まったと思います。